

流行ニュース：

## &lt; 黄熱、リベリア &gt;

8月16日、厚生省はグランドケイプマウント地方における黄熱の流行を確認した。さらに拡大する可能性があるため、厚生省とWHOおよび非政府組織は、直ちに15万人を対象にワクチン接種のキャンペーンを実施した。また影響を受けた地域やリスクのある地区においては監視が強化された。WHOは黄熱の発見と介入活動に対する支援の組織化に努力している。

今週の話題

## &lt; 血漿の国際売買 &gt;

最近、ロンドンのサンデータイムスなど新聞社数社が、南アフリカから広まった汚染されたヒトの血漿の国際売買について報告した。記事はWHOから南アフリカの保健当局へ提出された報告に基づくとされるが、この報告にWHOは関与していない。血漿の国際売買に際し、各国の監督機関の情報交換は必須であり、血液製剤の輸入国の監督機関は、輸出国の監督機関から製品の品質についての情報を求めることが可能である。

## &lt; 先天性風疹症候群の予防 &gt;

先天性風疹症候群(CRS)とその予防の世界事情を調査するための会議が、2000年1月12日-14日、スイス、ジュネーブにおいて開催された。以下にその概要をまとめる。

\* CRSの与える負担：CRSは聴覚障害、視覚障害、知的遅延の原因となる。1年間の発症は、1000人の出生に対し0.6から4.1人である。通常は風疹の発生と関連している。CRSの10万例以上が毎年、発展途上国単独で発生している。予防接種率が80%以上の国では、特に麻疹の予防接種と混合で行えば、利益はコストを上回ることが証明されている。

\* 風疹ワクチンの世界的使用状況：2000年4月現在、214の国や地域のうち111の国または地域において、全国予防接種プログラムが実施されている(Map1)。風疹ワクチンを使用している国の割合は様々で、アフリカは2%、東南アジアは20%、中東アジアは50%、西太平洋地域は57%、ヨーロッパは68%、アメリカは89%である(表1)。

\* 風疹予防接種の戦略：CRSを含む先天的な風疹感染の予防のために、(1)思春期の女子および妊娠可能期の女性を対象とするべきである。ワクチンは胎児には影響はないので実施前の妊娠有無のスクリーニングは不要である。(2)妊娠可能期の女性をサーベイランスして免疫を確実にするとともに、風疹そのものをなくすために、乳児のワクチン接種を全世界で行うべきである。

\* 風疹ワクチンの実施範囲のモニタリング：風疹ワクチン実施範囲は正確かつ時期を得た方法で年齢と地域に応じて慎重に選ぶべきである。プライベートセクターでの児童期の風疹ワクチンの供給は伝播の強弱に影響し、妊娠可能期の女性に風疹の罹患感受性を増加させるので、その場合は範囲や影響を注意深くフォローすべきである。

\* サーベイランスのガイドライン：WHOのCRSおよび風疹サーベイランスのガイドラインは1999年5月分を参照されたいが、そのサーベイランス方法は盲目、聾啞、および先天性奇形に対する乳児の評価も含む。また、妊娠可能期の女性の風疹抗体価を調査し潜在的なリスクの評価を間接的に行う方法も含まれる。

\* 風疹の検査室診断：発熱を伴った発疹疾患に対する診断能力は世界的な麻疹検査室ネットワークの発展の一部として多くの国で確立されてきている。なかでも血清学的検査は世界各国で風疹ウイルスが流行していることを明らかにしている。血清学的検査の確定診断率は、WHOアメリカ地域では麻疹と診断されたケースの26%(1999年)、チュニジアでは63%が風疹と確定された(1999年1月~6月)。さらに、南アフリカでは発熱を伴う発疹疾患ケースの46%が風疹の確定を受けた(1998年)。

\* 実施に際して必要とされる研究：遺伝子による基準の確立と流行しているウイルスに制御手段を関係づけるために風疹ウイルスサンプルを集める努力がなされるべきである。また、現在、風疹IgM抗体の検出方法は主として血液標本に対してELISAテストが用いられているが、標本収集に対して非侵襲的な方法や、風疹ウイルスに対するIgM抗体やウイルスのRNAを検出するためのさらなる方法を続けて開発するべきである。

表1: 予防接種プログラムで風疹ワクチン接種を実施している国々の割合、1996年および2000年におけるデータを世界全体およびWHO管轄地域別に表している。(WER参照)

流行ニュースの続報： < インフルエンザ >

オーストラリア(2000年9月1日)<sup>1</sup>：過去2週間でシドニーにおけるA型ウイルスのインフルエンザが活発化してきている。8月にはブラジル<sup>2</sup>、チリ<sup>3</sup>、香港<sup>3</sup>、ニューカレドニア<sup>2</sup>、南アフリカ<sup>4</sup>、ウルグアイ<sup>4</sup>でもインフルエンザの散発が報告されている。分離された大部分のインフルエンザA(H3N2)ウイルスは香港由来である。参照：<sup>1</sup>No.34,2000,p.280,<sup>2</sup>No.31,2000,p.256,<sup>3</sup>No.33,2000,p.272,<sup>4</sup>No.28,2000,p.232(伊藤健一、傳秋光、小西英二)

地図1：風疹ワクチン接種が国の予防接種プログラムに含まれる国または地域（2000年4月）

